

雄神橋

雄神橋は、庄川が山間部から平野部へ流れ出る場所にあり、上流の特徴を示す地形と中流の特徴を示す河川敷が一度に観察できます。また、この場所の何よりの長所は弁財天公園に隣接していることで、トイレがあり、駐車スペースも広いことです。「流れる水のはたらき」として学習するには、右岸、左岸の両方とも使えますが、駐車場に近い分、左岸側のほうが使いやすいようです。弁財天公園に隣接するグラウンドわきの道（写真）を歩いて川原に入ることができます。ここの川原は、中流でも上流に近いため、礫は丸いが、一般に大きいという特徴があります。そのため、川原へ降りてからの移動では、足のふみはずしやスリップに注意しましょう。一方、右岸側には、河床に地層が露出しています。この地層は「医王山累層(1600万年以上前に堆積したと推定されている)」に対比されており、火山灰を多く含みますが、礫岩、砂岩、泥岩がひとつおりに観察できます。なお、地層の観察を目的とする場合は、同じデジタル理科室内の「富山県内の化石産地と観察に適した露頭」の砺波市「雄神橋下流庄川河川敷」に詳しく紹介してありますので、そちらをご覧ください。

観察対象	河川中流部だが上流の特徴を示す地形も観察可能
観察できる人数制限	特になし
流速の実験の安全性	つりざおにペットボトルをつけて実験するなど工夫したほうがよい。
バス駐車スペース	あり
トイレ	左岸の弁財天公園のトイレを利用できる。



入口



右岸側からは上流の地形と中流の平野のながめの両方が見えます。

雄神橋右岸下流から上流



雄神橋右岸下流から下流



川原の状態

地層の様子

